



## 延岡信用金庫における知的資産活用支援の取組みについて

南九州支店 鬼沢 長史

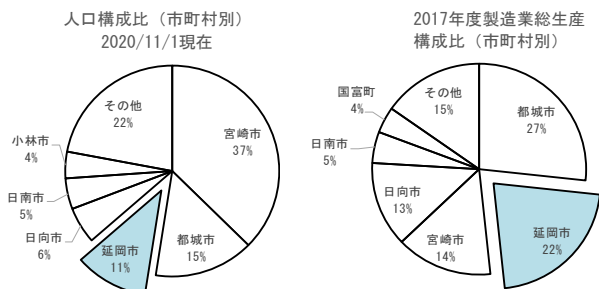
### ポイント

- 宮崎県延岡市は、旭化成(株)発祥の地という土地柄を背景に、製造業が地域経済を牽引しているが、企業が有する知的資産の評価・承継の仕組みが確立されておらず、地域製造業の衰退が懸念されている。
- かかる状況下、延岡信用金庫は、製造業をサポートするため、知的資産活用支援を強化する方針のもと、延岡市や宮崎県工業会県北分室と連携して九州経済産業局「令和2年度中小企業知的財産活動支援事業費補助金」に交付申請し、採択された。
- 延岡信用金庫は、当該補助金の利用により、地元企業が知的資産戦略を立案できるよう支援体制を構築し、今後の戦略実行フェーズに伴走していく。

### 1. 取組背景

宮崎県延岡市（以下「同市」という。）は、総人口約12万人を擁する県下第3位の主要都市であり、旭化成(株)発祥の地という土地柄を背景に、製造業が地域経済を牽引している(図表1)。

【図表1】宮崎県内の人口・製造業総生産の構成比



(出所) 宮崎県公表情報をもとに信金中金作成

同市には、旭化成(株)の下請け企業をはじめ、技術力の高い製造業者が数多く存在する。一方、代表者の高齢化が進むなか、今後5~10年間に事業承継を迎える企業が増加する見通しである。

事業承継の課題として、後継者が自社の有する知的資産<sup>1</sup>を適正に評価できず、また十分な活用もできず、永年かけて積み上げてきたバリューチェーンが断絶するおそれがある。

同市に本店を構える延岡信用金庫<sup>2</sup>(以下「当金庫」という。)は、地域にとって製造業の持続可能性を高めることが最重要という課題認識のもと、資金支援はもちろんのこと、当金庫職員が企業の知的資産を適正に評価し、本業支

援に伴走できる支援体制を構築すべく、九州経済産業局の「令和2年度中小企業知的財産活動支援事業費補助金」を活用するに至った。

### 2. 九州経済産業局の補助金の活用について

政府は、国内中小企業の競争力強化の一施策として、各企業が持つ知的資産のうち、知的財産の保護や活用を促進するため、知的財産戦略本部を設置した。また、地域ごとに実働拠点が設置され、九州地区では九州経済産業局知的財産室が事業運営を担っている。

九州経済産業局においては、中小企業への知的財産支援施策の先導的な取組み定着等を実施する産業支援機関を対象に、毎年度「中小企業知的財産活動支援事業費補助金」を公募している。

令和2年度においては、図表2のとおり、2区分の補助対象事業が公募された。当金庫は、区分Bにて「中小企業製造業の知的資産承継に向けた地域支援体制の検証事業」(以下「本事業」という。)を申請し、採択された。

【図表2】中小企業知的財産活動支援事業費補助金の対象

区分	事業名	事業内容
A	中小企業支援発展型事業	中小企業等の知的財産活用を促進するために、産業支援機関が有する中小企業等支援施策を拡充させる事業
B	中小企業支援定着型事業	中小企業等の知的財産活用を促進するための先導的な仕組みづくり等を重視した支援事業を地域に定着させる事業

(出所) 九州経済産業局HPをもとに信金中金作成

### 3. 当金庫が取り組む本事業について

当金庫が補助金を活用し取り組む本事業は、地元企業9社<sup>3</sup>を対象に、知的資産を適正に自己評価し、それを効果的に活用できるよう、当金庫による伴走支援体制を構築することを目的とする。実施スケジュールは、図表3のとおり。

【図表3】 本事業の実施スケジュール

2020年 9月	当金庫職員 向け研修	当金庫職員（営業店長クラス）に対し、担当企業が知的資産戦略を立案・実行できるよう、伴走支援のノウハウについて、専門家から研修を受講
2020年 10～12月	企業が有する知的資産の 棚卸し	当金庫職員と担当企業が対話を通じて、会社の創業からこれまでに蓄積してきた商品・技術・強み等の知的資産を棚卸し
2021 2月	専門家との 面談	棚卸した知的資産について、現在の本業以外に应用可能性のある分野がないか、専門家との面談により検討・評価を実施
2021年 2～3月	知的資産戦略の 立案	当金庫職員が、これまでの内容を踏まえ、担当企業の知的資産戦略を立案。
2021年 4月	本事業の総 括・報告	当金庫にて本事業の統合報告書を作成し、九州経済産業局へ提出

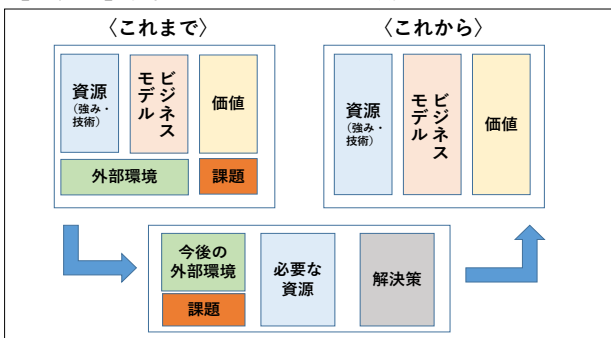
（出所）当金庫資料をもとに信金中金作成

本事業では、当金庫職員と企業が対話をするうえで、同じ方向性を共有するツールとして、「経営デザインシート」を活用した（図表4）。

当金庫職員にとって、担当企業の経営デザインシートを完成させるために、高い対話力を習得することが肝要となる。

経営デザインシートの活用方法等の詳細は、図表6のQRコード・URLを参照いただきたい。要点としては、企業の「過去（これまで）」を総括のうえ、外部環境等の課題と照らし合わせ、「将来（これから）」目指す姿・ビジネスモデル等を明らかにするものである。

【図表4】 経営デザインシートの概要



（出所）当金庫資料をもとに信金中金作成

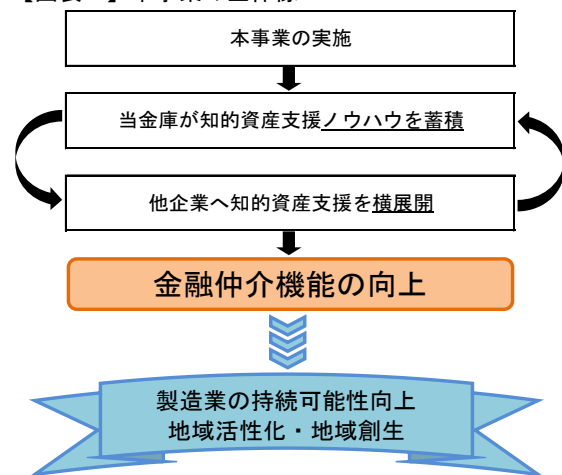
### 4. 今後の展望

当金庫は、本事業を通じて、地元企業9社の事例に基づいて、知的資産の評価から活用戦略の立案までを実践した。

今後は、立案した知的資産戦略の実行フェーズに伴走するとともに、本事業により蓄積したノウハウを活かして、本事業に参加していない他企業に対しても知的資産支援を横展開していく方針である（図表5）。

さらに、企業が有する知的資産を自社内での活用に留めることなく、発展的応用を希望する企業に対しては、異業種企業など他社との連携を試みる「オープンイノベーションマッチング」を活用することも視野に入れている。

【図表5】 本事業の全体像



（出所）当金庫からのヒアリングをもとに信金中金作成

【図表6】 本事業の総括・報告（動画）

<p>&lt;当金庫意見&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・当金庫は、地域にとって重要な製造業の事業承継問題を契機に、本事業に取り組んだ。</li> <li>・同様の課題を抱える地域・信用金庫において、知的資産支援の参考になれば幸甚である。右記動画も積極的に視聴願いたい。</li> </ul>	<p>QRコード</p>
--	--------------

（出所）当金庫資料・ヒアリングをもとに信金中金作成

1 「知的資産」とは、人材、技術、組織力、顧客とのネットワーク、ブランド等の目に見えない資産のことであり、企業の競争力の源泉となるものをいう。つまり、「知的資産」は、特許やノウハウのことをいう「知的財産」よりも広範な定義となる。

2 2021年3月末の当金庫概要は以下のとおり。本店所在地：宮崎県延岡市、預金量：708億円、貸出金量：352億円、店舗数：8店舗、常勤役員数：78人

3 地元企業9社は、今後5～10年間に事業承継が見込まれる、優れた知的資産を有する企業（年商1～10億円）を対象に選定した。なお、うち3社は当金庫未取引先

本レポートは、情報提供のみを目的とした上記時点における当研究所の意見です。施策実施等に関する最終決定は、ご自身の判断でなさるようお願いいたします。また、当研究所が信頼できると考える情報源から得た各種データ等に基づいて、この資料は作成されておりますが、その情報の正確性および完全性について当研究所が保証するものではありません。